

明 — みよう —

真宗大谷派 本明寺通信

No.16

2010年4月1日発行



御遠忌テーマ 今、いのちがあなたを生きている



今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを
求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

東京教区 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

お待ち受け大会



一月二十四日から二十八日、真宗会館におきまして、毎年の教区報恩講を兼ねまして、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け大会並びに真宗会館設立二十周年式典が行われました。

この度のお待ち受け法要は、大谷暢頭門首の御親修により勤まり、



起立散華が行われ、例年の報恩講とは一味違う厳肅な雰囲気でも勤められました。

いよいよ一年後に宗祖の御遠忌を控え、教区が一丸となり、また一人ひとりが御遠忌を迎える大切な法要が勤められたのではないのでしょうか。

また、真宗会館設立二十周年ということでもありました。本明寺では二十年前に行われた、設立の落慶法要に団体参拝しておりました。その時に真宗会館前で撮影した集合写真がありましたので掲載します。





『御文』から

現代の性差別を

考える学習会

二月十九日（金）真宗会館にお
きまして、『御文』から現代の性
差別を考える学習会」を開催いた
しました。昨年度までは教区報恩
講学習会として、報恩講企画会と
共に「お浚えの御文」を中心にし
て学習会を開いてきましたが、今
年度からは「お浚えの御文」だけ
に留まらず、『御文』全体を通して

現代の性差別を考える学習会にな
りました。今回は箕輪秀邦氏（仁
愛大学名誉教授）より「女性差別
問題を御文に学ぶ」という講題で
お話いただきました。

（以下要約）

『御文』の中には「五障三従」
「あさましき女人」など差別的表
現があるが、「男女老少をえらばざ
る」「女人をえらばず」という平等
的表現もあります。蓮如上人は全
ての『御文』において差別をして
いるわけではないことを確認して
おく必要があると思います。キリ
スト教の聖書の中にも差別的表現
はありますが、その言葉を讀まな
いということをしています。しか
し、私たち宗派の儀式作法の場
では差別的表現がある『御文』を平

気で拝読されています。また、そ
の話を話し合う場が持たれてい
ないことが現実です。

そもそも、人権や平等というこ
とが問題にされたのは十八世紀フ
ランス革命以降、ルソーの『人間
不平等起源論』に始まります。そ
れから様々な人権が主張されるよ
うになりましたが、男女の不平等
問題は二十世紀に入ってからのフ
エミニズム（女性同権主義、女権
拡張論、女性解放運動）からです。
結果、婦人参政権が認められ社会
的平等にはなりました。しかし社
会的平等になっても「女性差別観
」はなくなりませんでした。それ
は、男女不平等が歴史の中にすり
込まれた思想であり、男女共に男
女不平等という意識が変わらな
かったこと、つまり意識の固定化（

パラダイム)があるからです。これからは私たちが長い歴史の中で作ってきた男女不平等のパラダイムチェンジ(固定化した意識を変える)をしなくてはいけないと思います。

『御文』の中で差別的表現があるとして特に取り上げられるのは「お浚えの御文」の「五障三従」という言葉です。この「五障三従」という言葉は蓮如上人から使われたのではなく、歴史を辿ると原始仏教の時代のインドまで遡ります。「五障三従」という言葉はカースト制度、またヒンズー教の中で使われてきた言葉なのです。それが長い仏教の歴史の中で入り込み、経典として伝わり、日本仏教の女性差別観がパラダイムとして根強く残っており、蓮如上人の『御文

』の中に差別的表現が入ってきたのではないかと考えられます。しかし蓮如上人の差別的表現には女人禁制など当時の仏教が女性を排除しようとした意図のものではなく、逆に性的差別の中にあつた女性と真剣に向かい合い、積極的に女性救済を考え、願っていたのではないかと思えます。

最後に、これからの差別的表現があるお聖教の取り扱いについて、文言を変えたり、削除するのではなく、まずは儀式作法の場では読まないということ。逆に、声明の稽古や研修会や学習会などでは真剣に向かい合う必要があると思えます。

(同朋社会推進ネットワーク
『しゃばネット』掲載記事より)

その他の歩み



◆ 一月十三日(水)

山谷炊き出し②

◆ 二月五日(金)

お寺の子ども会サポートプラン

◆ 二月十日(水)

山谷炊き出し③

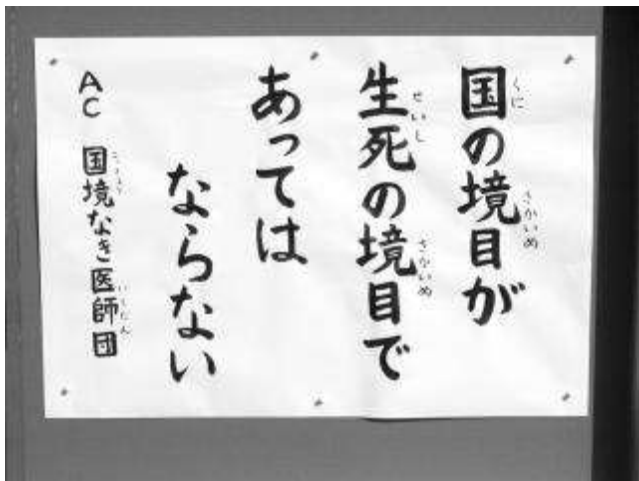
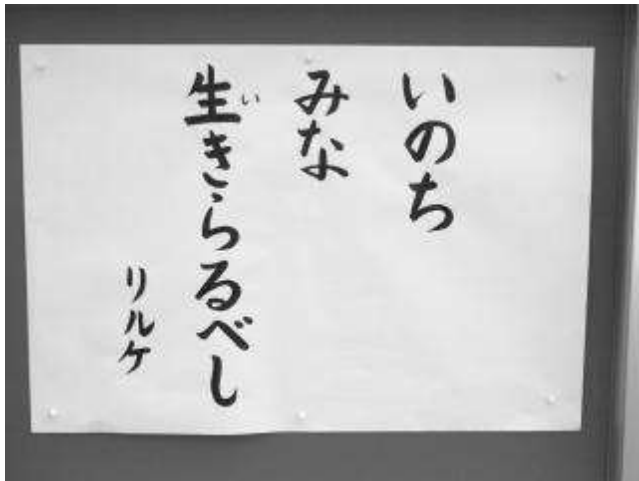
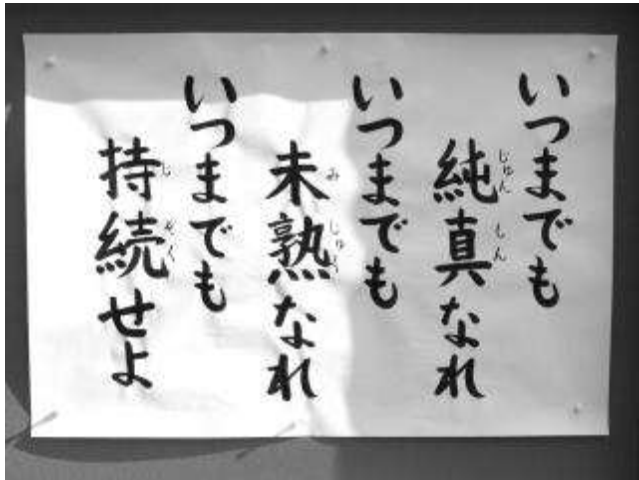
◆ 二月十四日(日)

親鸞フォーラム

◆ 三月二十五(木)～二十六日(金)

非戦平和研修会 長野県松代

などなど



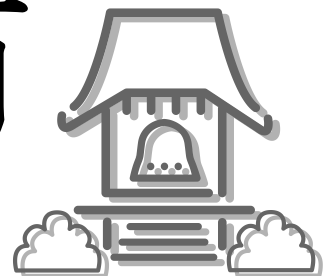
お寺の掲示板

一月
二月
三月

一月

二月

三月



本明寺の予定

◆おみがき奉仕のつどい

五月二十三日(日)
十三時から
一緒に仏具をきれいにしながら
からお話をしませんか。

◆永代経法要

五月三十日(日)

日程

12:00 受付

13:00 お勤め

14:00 法話

15:00 お斎(親睦会)

永代経法要とは、永代にわた
りお経(教え)が大切に受け継
がれることを願ってお勤めする法
要です。ご家族にもお声かけを
し、ご一緒にご参加くださいま
すようお願い申し上げます。

◆本明寺聞法会

期日

六月二十日(日)

七月二十五日(日)

八月二十九日(日)

九月十九日(日)

時間

十四時〜十六時

お話

本田彰一(本明寺副住職)

昨年の報恩講において帰敬式
を執り行うに当たり、真宗入門
講座を開催いたしました。そし
て講座終了後から、このような
講座の開催を求める声があり
ましたので、休会していただき
本明寺聞法会として再開いたし
ます。ぜひとも、ご参加くださ
い。お待ちしております。

◆東京一組

御遠忌団体参拝

二〇一一年四月二十五日(月)

〜二十七日(水)

コース

東本願寺(御遠忌法要)〜郡

上八幡〜白川郷・明善寺〜高

山別院

費用 七万八千円

本明寺定員 十二名

(全体定員一四〇名)

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠
忌法要を真宗本願(京都・東本
願寺)において厳修します。五
十年に一度のこの勝縁に聖人を
偲びつつ、そのみ教えを聞きひ
らいていきたいと思ひます



本明寺 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 お待ち受け大会 兼 本明寺報恩講

期日：2010年10月31日（日）

日程

- 12:00 法話（本田隆見 本明寺住職）
- 13:00 お待ち受け法要
- 14:00 落語（古今亭 菊千代師匠）
- 15:00 お齋

いよいよ、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の法要が来年3月より真宗本願（京都・東本願寺）にて厳修いたします。その御遠忌に向けて、様々などころで親鸞聖人にちなんだ行事やイベントが行われています。

本明寺におきましても親鸞聖人の御遠忌を来年に控えまして、お待ち受け大会を開催いたします。50年に一度のこの勝縁に聖人を偲びつつ、そのみ教えを聞きひらいていきたいと思っております

※お申し込み・お問合せは、お気軽に本明寺までご連絡ください。

◎お詫びと訂正◎

小紙No.十五号四頁下段におきまして、根本武彦氏の法名を誤って掲載してしまいました。根本氏にはご迷惑をおかけしましたことをお詫びするとともに、左記のとおり訂正させていただきます。

正誤	釋 釋
	彦 彦
	清 武

◆ 私たちの真宗 ◆

- 一、本尊 阿弥陀如来
- 二、宗祖 親鸞聖人
- 三、宗旨 浄土真宗
- 四、宗派 真宗大谷派
- 五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）
- 六、経典 浄土三部経 仏説無量寿経
仏説観無量寿経
仏説阿弥陀経
- 七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる
- 八、称名 南無阿弥陀仏
- 九、勤行 正信偈・念仏・和讃・回向・御文
礼拝の生活
《朝夕に勤行をいたしましょう》
- 十、宗風 正信の生活
《迷信に惑わされないで歩みましょう》
聞法の生活
《仏法を聴聞し、生まれた意義と
生きる喜びをみつけましょう》

あとがき

▼現在墨田区で建設中のスカイツリーが東京タワーの高さを越えました。建設中のスカイツリーを見ようと多くの人が訪れています。お近くに来た際は本明寺にお参りください。

★ご意見・ご感想・ご質問などをお待ちしています。

★バックナンバーをご希望の方はご連絡ください。すぐにお送りいたします。

発行 真宗大谷派 本明寺
副住職 本田 彰一（釋 彰一）
〒130-0012 東京都墨田区太平二・七・一
TEL 03-3623-1536
FAX 03-3623-1538
E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/>